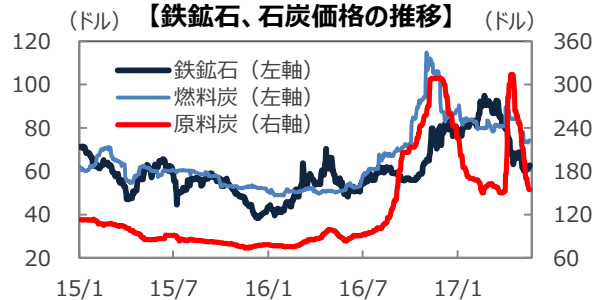


今日のトピック 鉄鉱石・石炭の価格と豪ドルの動向 需給改善で価格は間もなく安定へ、豪ドルの下支え役に

ポイント1 価格は乱高下 足元は落ち着きつつある

- 鉄鋼の主原料となる鉄鉱石の価格は、2017年2月下旬に1トン当たり90ドル台半ばまで上昇しましたが、これを当面のピークとして下げに転じました。足元では同60ドル台前半で推移しています。
- 石炭は、鉄鋼用原材料としてのコークス製造などに利用される原料炭で見て、17年2月中旬の1トン当たり約150ドルから一時同300ドル台まで上昇したものの下落、直近では急騰前の水準である同150ドル台で推移しています。

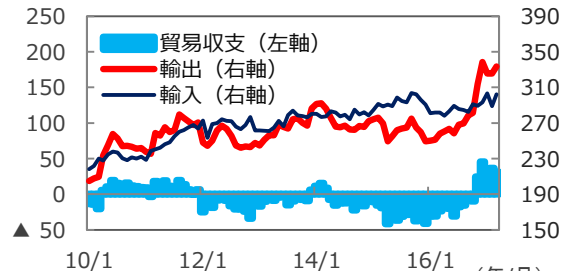


(注) データは2015年1月1日～2017年5月23日。(年/月)
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 鉄鉱石価格は間もなく安定へ 石炭は政府規制が当面の焦点

- 石炭については、環境規制の強化を図る中国での生産規制が当面の焦点となりそうです。一方、鉄鉱石は、足元の価格が中国鉱山の損益分岐点を下回ってきたと見られ、今後、減産が予想されます。中国での社会資本整備の盛り上がりを踏まえ、間もなく需給、価格は安定に向かう見通しです。

(億豪ドル) 【豪州の貿易収支の推移】(億豪ドル)

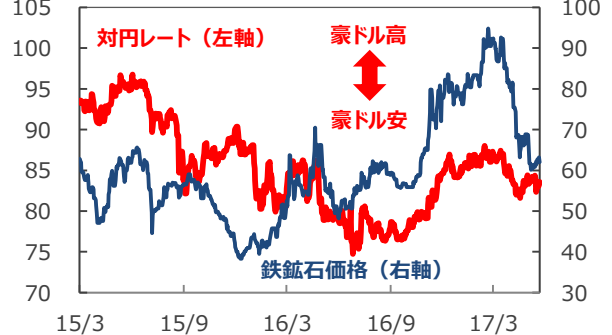


(注) データは2010年1月～2017年3月。貿易収支は輸出から輸入を引いたもの。輸出入は財およびサービスの合計。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 鉄鋼は豪ドルの下支えに

- 豪ドルの対円相場は、鉄鉱石や石炭等の資源価格の持ち直しを受け、昨年6月下旬を当面の底に戻り歩調を辿ってきました。
- 足元では上昇一服となっていますが、①資源価格の持ち直し、②それによる輸出の拡大と、貿易収支の改善（黒字転換）、③豪州準備銀行（RBA）と日銀の金融政策の方向性の違い（RBAは中立姿勢維持の見通し、日銀は緩和姿勢継続）等から判断すると、今後も豪ドルの対円相場は底堅く推移すると予想されます。

(円/豪ドル)【豪ドルの対円相場と鉄鉱石価格】(米ドル/トン)



(注) データは2015年3月2日～2017年5月23日。(年/月)
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年5月17日 注目される「雄安新区」！（中国）
2017年5月16日 インフラ投資の拡大で中期的な成長を目指す豪州経済

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。